

技術士の資質・地位向上へ

(公社)日本技術士会 中国本部長 大田 一夫



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、平素より日本技術士会中国本部の事業運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本会の使命は、「技術士の資質向上」と「技術士の地位向上」の二つに集約されます。

二つ目の使命である「技術士の資質向上」については、鳥取・岡山・山口の3県支部と10委員会・8部会が積極的に講演会等のCPD(継続研鑽)行事を開催した結果、2020年度の実績で見ると、CPD行事数が104回、提供

したCPD時間が232時間、延べ参加人数は4771人で5年前の約1・8倍となっております。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年の3月以降、集合形式の講演会や会議は中止

してオンラインを基本としており、やむを得ず集合形式で開催する場合は、会場定員の50%以下にして配席間隔や換気に留意するとともに、出席者に手指消毒、マスク着用、検温を義務付けております。

一方、オンラインは遠隔地からの参加を可能にしており、行事1回当たりの参加人数は増える傾向にあり、コロナ終息後においては、集合形式に加えて、オンラインの併用も必要と思っております。

したCPD時間が232

時間、延べ参加人数は4771人で5年前の約1・8倍となっております。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年の3月以降、集合形式の講演会や会議は中止してオンラインを基本としており、やむを得ず集合形式で開催する場合は、会場定員の50%以下にして配席間隔や換気に留意するとともに、出席者に手指消毒、マスク着用、検温を義務付けております。

一方、オンラインは遠隔地からの参加を可能にしており、行事1回当たりの参加人数は増える傾向にあり、コロナ終息後においては、集合形式に加えて、オンラインの併用も必要と思っております。

この様に現在はコロナ禍でピンチの時ですが、これを機会に政府が「働き方改革」のために推進しているテレワークが、本会および会員に普及・定着するチャンスと捉えて、オンライン化を推進しております。

全ての主体が災害リスクに関する知識と心構えを共有し、様々な自然災害に備える「防災意識社会」の実現に貢献できればと思っております。

教育支援については、

昨年8月に松江高専と連携協力協定を締結し、これで中国本部の協定締結校は1大学4高専となりました。我が国が引き続き科学技術先進国たり得るためには、研究施設・設備・機器の持続的な整備に加えて、これらの運営の要としての専門性を有する人材の持続的な確保・資質向上が不可欠であり、21世紀を担う技術士の卵とも言える学生達に対する、技術士の豊富な実務経験と専門的応用能力に基づく実践的なキャリア教育支援は、重要な社会貢献活動として推進してまいります。

最後に、新しい年が皆様にとりまして、幸多き年となりますことを祈念申し上げまして年頭の挨拶とさせていただきます。